

<平成 28 年度春季大会シンポジウム企画>

魚類人工種苗の形態異常：これまでとこれから

日時・場所：平成 28 年 3 月 26 日（土） 9：00－17：30 東京海洋大学品川キャンパス

企画責任者：有瀧真人（福山大生命工）・田川正朋（京大院農）・征矢野 清（長大海七）

9:00－9:10 開会の挨拶・趣旨説明

有瀧真人（福山大生命工）

I. 異体類における体色・眼位異常の防除と理解

座長：南 卓志（福山大生命工）

9:10－ 9:40 1. 異体類の体色・眼位異常研究のこれまで

青海忠久（福井県大）

9:40－10:10 2. カレイ類の体色・眼位異常は左右性異常である

有瀧真人（福山大生命工）

10:10－10:40 3. ウシノシタ類に発現する体色・眼位異常

草加耕司（岡山水研）

10:40－11:10 4. 異体類の体色・眼位異常におけるホルモン系関与の可能性

田川正朋（京大院農）

II. 重要魚類における形態異常の現状と防除の試み

座長：照屋和久（水研セ西海水研）

11:10－11:40 1. ヒラメに発現する脊椎骨および顎顔面骨格の異常

芳賀 穰（海洋大）

11:40－12:50 休憩（昼休み）

12:50－13:30 2. マハタ・クエに発現する脊椎骨等の異常

辻 将治（三重農水）・

中田 久（近大水研）

13:30－14:00 3. ブリに発現する頭部骨格等の異常

堀田卓朗（水研セ西海水研）

14:00－14:30 4. ニホンウナギの種苗生産過程で発現する様々な形態異常

田中秀樹（水研セ増養殖研）

14:30－15:00 5. マダイにおける骨格異常と胚発生環境との関わり

澤田好史（近大水研）

15:00－15:15 休憩

III. 形態異常研究における新たな視点

座長：虫明敬一（水研セ西海水研）

15:15－15:45 1. 異体類における左右性異常を発生システムと遺伝子発現から追う

鈴木 徹（東北大院農）

15:45－16:15 2. 形態異常を卵質という古くて新しい課題から考える

征矢野清（長大海七）

16:15－16:45 3. 形態異常における研究手法の現状と今後

宇治 督（水研セ増養殖研）

IV. 総合討論

座長：青海忠久（福井県大）

16:45－17:25 総合討論

17:25－17:30 閉会の挨拶

田川正朋（京大院農）

企画の趣旨

栽培漁業により海産魚類の飼育技術が産声を上げてから約 50 年が過ぎた。これまで種苗量産の対象となった魚類だけでも 60 種を優に超える。ここに至るまでに飼育現場では多種多様な問題の解決が試みられ、それが技術力として蓄積されてきた側面もある。中でも様々な魚種、部位に発現する形態異常は技術開発の当初から大きな問題であった。近年、ヒラメをはじめとした異体類の形態異常に関しては、その発現機

序が変態という生態的な特徴と関連付けて検討され、内分泌や遺伝子発現からも解明が進んできた。一方、他の魚種については脊椎骨の異常や頭部骨格の変形など防除策の模索が継続しており、「古くて新しい課題」となっている。この企画では、今まで行われてきた形態異常の研究を総括するとともに、新たな切り口と今後の方向性を提示することを目的とした。

